

## 第2回シンポジウム

# 古代インドにおけるアセティシズムの諸相

## —禁欲・苦行・出家—

2017年3月25日(土)・26日(日)

京都大学人文科学研究所 本館4階 大会議室

3月25日(土) 14:00~18:20

梶原 三恵子

### 聖典学習者と禁欲 —brahmācārin 再考—

ヴェーダ聖典の学習者をさす brahmācārin- という語は、ある時期から「禁欲している者」をも意味するようになる。ヴェーダ文献、ポスト・ヴェーダ文献、初期仏典を資料に、ヴェーダ聖典学習者の修行と禁欲との重なる濃淡をたどる。

藤井 正人

### 社会に取り込まれた苦行 —ヴァーナプラスタ(林住者)と山林苦行者—

アーシュラマ(四住期)は理想的な人生モデルとしてインド人の人生観に大きな影響を与えてきたが、法典において理念として提示されているだけで、社会制度としてのリアリティが希薄である。老後の出世間とされるヴァーナプラスタに焦点をあて、理念の背後にある具体相—古代インドの山林苦行者の運動と伝統—にせまる。

河崎 豊

### 誰が出家するべきか

#### —白衣派ジャイナ教資料に見える議論をめぐって—

白衣派ジャイナ教徒ハリバドラ・ヴィラハーンカ(五~六世紀)が示す、在家者に出家を許可する基準と、それに対する非ジャイナ教徒からの反論とを手掛かりとし、出家に対する当時の価値観の一端を検討する。

八木 綾子

### ジャイナ古層聖典における saṃjama の意味について

ジャイナ古層聖典において、「自制(saṃjama)」は、苦行と対で用いられることも多い重要な語であるが、その性格、意味は必ずしも明らかではない。そこで、先行研究を踏まえた上で、古層を含むとされる4つの聖典と、関連個所の用例を検討して、自制の意味を明らかにしたい。対で用いられる「苦行」にも適宜言及しながら、問題点を整理して今後の課題へつなげる。

3月26日(日) 10:00~12:20

大島 智靖

### 初期シヴァ教のディークシャーとヴェーダ

パーシュパタ派の文献や Nīśvāsātattvasaṃhitā のディークシャー章に見られるヴェーダ的ディークシャーの要素を考察する。後代諸派のインド密教儀礼・灌頂儀礼なども多少視野に入れ、ヴェーダの継承と換骨奪胎を検討したい。

横地 優子

### パーシュパタ派のヨーガ

最初期のシヴァ教の宗教集団であるパーシュパタ派に関しては、この20年ほどの間に新たな資料の研究が進んでいる。『スカンダプラーナ』もその一つであるが、特にその最後の10章はパーシュパタ派のヨーガ儀軌の教示に充てられており、『パーシュパタ経典』とそれに対する注釈の記述とは異なる側面からこの派の修行法をうかがうことができる。本発表ではこの儀軌の内容を概観したのちに、ヨーガの定義、灰による沐浴などいくつかの項目をとりあげて、ブラフマニズムとの連続性・非連続性を考察する。

#### 京都大学人文科学研究所へのアクセス

<http://www.zinbun.kyotou.ac.jp/access/access.htm>

問合せ

藤井正人研究室(326号室)

075-753-6949

藤井 [fujii@zinbun.kyoto-u.ac.jp](mailto:fujii@zinbun.kyoto-u.ac.jp)

手嶋 [h-teshima@po.kbu.ac.jp](mailto:h-teshima@po.kbu.ac.jp)